
緋弾のARIA ~ 呪われた眼を持つ者 ~

クロス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア〜呪われた眼を持つ者〜

【Nコード】

N1976Z

【作者名】

クロス

【あらすじ】

呪われた眼 複写眼をもつ主人公、海山玄武はキングと共に武偵、神崎・H・アリアに出会ってしまい、色々と面倒ごとに突っ込むようになったしまった。

週に3話あげたらいいほうです。

今日の天気は晴れ時々少女(前書き)

初投稿のクロスです。初めて何でめちゃくちゃだと思いましたが長い眼で見てくださいm(――)m

主人公紹介

名前：海山玄武・カイザンゲンブ・

学科：探偵科 Sランク

武器：トカレフTT-33 3丁どれも改造銃

刀 3本(月光、朱雀、陽炎)

カゲロウ

太刀 1本 霧幻

ムゲン

ナイフ 2本

ワイヤーつき投げナイフ 10本

身長：172?

体重：55?

アルファ・ステイグマ

能力：複写眼……この眼の保持者は超能力の発動を一度見ると能力の構造を読み取り、自分のものにする。

（相手の発動してる能力を消すこともできる）

・限られた時間でしか使えない（現在は5分）

・時間ギリギリまで使うと、次の日全身が筋肉痛

で動けなくなる

・精神的に重いダメージを負うと眼が暴走し、回
まわりを破壊し尽くす

呪われていると言われる理由

容姿

黒髪に不知火級のイケメン普段は黒い眼

今日の天気は晴れ時々少女

第一弾 今日の天気は晴れ時々少女

空から女の子が降ってくると思うか？

多分、嬉しいなあとか言うやつがいるかもしれんが実際に全く嬉しくない。

カイザンゲンブ

少なくともそれを体験した遠山キンジと俺こと海山玄武はそうは思わないだろう。それをきっかけに人生は激変したのだから・・・

ピン、ポーン

憤ましいドアチャイムの音で俺たちは目が覚める。

どうやらキンジはベッドでトランクスー丁寝ていて俺はソファアで制服で寝ていたらしい

(つーか誰だよ七時なんて朝っぱらから)

「キンジ、まだ寝るから出てくれ」

キンジが服を着てる途中に言った

「寝るなそしてゲンお前が出る」ゲンってのは俺の呼び名だ

「嫌だ！俺のエネルギー源は睡眠時間だ！よって俺は寝る」

キンジがため息をついて玄関に行った。なんだ行くんじゃない

「絶対起こさないで放置しといてやる」

「ひどっ」

そして俺は眠りについた。

俺はそのとき二度寝したことを一生後悔するであろうそのせいであ
の武偵 神崎・H・アリア に出会ってしまったのだから

約一時間後

「キンジ、何で起こしてくれないんだよ」

「いや、起こさないとって言ってたし一回起こそうとしたよ」

「一回だけじゃなく何度も起こせよ。つーかなぜ二度寝してないお
前も遅刻しそうになってんだよ」

「メールチェックしたらゲンが起きて時間にきずいたんだよ」

ちなみに俺とキンジはチャリで走行中だ。

「そのチャリ二台には爆弾が仕掛けてありやがります」

「キンジ、変なこと言うなよ」

「ゲンおれじゃないぞ」

「そりゃそうだる後ろからきこえるし」

「だったら言うなよ」

「チャリを降りやがったり減速させやがると爆発しやがります」

「キンジ、と、とりあえず連絡を・・・助けを求めてはいけません。
ん。ケータイをしよう使用した場合も爆発しやがります」ですよね
」

「何のイタズラだっ！」

(正直俺一人だったら楽に潰せるのに通常モードのキンジと一緒にあ手下に動けないなあ、せめてキンジがあれになっていたら楽だったのに・・・この状況どうしようか)

あれ、女子寮の屋上になにかいるぞ。って飛び降りやがった

「バツ、バカ！来るな！この自転車には爆弾がー」

「クソッ、キンジ二度寝せずに今日の天気予報ちゃんと見ればよかつた女の子が降ってくるとは思わなかつたよ」

「ゲン、ふざけたこといつてる場合かよ」

「ほらそのバカ二人！さっさと頭を下げなさいよ！」

「へっ？」「キンジと俺があわせていうと

バリバリバリバリッ！」

俺たちが頭を下げるより早く、問答無用でセグウェイを銃撃した！

(射撃うまいなあ、つーかあんなの東京武偵校にいたか？って、あれ？こつちに向かってきてるし)

「く、来るなって言ってるんだろ！この自転車には爆薬が仕掛けられている！減速すると爆発するんだ！お、お前も巻き込まれるぞ！」

「キンジの言う通りだこつちに来るな」俺とキンジは慌てていった「ーバカっ！」

女の子はそう言う俺たちのちょうど真ん中あたりの上に陣取ったそして・・・げしっ！俺たちの脳天を力一杯踏みつけてとんだ。じみに痛い

そして女の子はこつちに向けて鋭くUターンしてーぶらん。逆さづりでこつちに飛んでくる

「マジかよ・・・！」「キンジと俺は青くなっていた。すると少女は俺たちを抱いてそのまま空へいく少しすると

ドガアアアアアアアアンツツッ！！」

爆弾が爆破した。あぶねえあと少して死んでたな。あゝあ、あのチャリ高かつたのに

そのままパラグライダーは体育倉庫に突っ込み俺は途中ではなされ壁に頭をぶつけてしまつて俺の意識は少しとんだ。

「痛ッ、武付け所悪かつたか。あれ、キンジはどこだそしてここは・
・体育倉庫か」少しキンジを探していると

俺は見てしまったキンジが女の子と跳び箱の中にいるところを、だから俺は気づかれないようにすぐに隠れいつも携帯している2つのデジカメで気づかれずに撮つた。

(これは面白い写真がとれたぞ。これは使えるぞ主に脅しに)

するとキンジがこちらに気づいた

「ゲンいつておくが俺は何もしてないぞ」

「その娘の服あげといてよく言つよ。まあそれを判断するのはこの写真を見た人だけだ」

俺がニヤニヤしながら片方のデジカメをキンジに見せてやった。

「なっ、その写真消せ！」

「で、キンジこの写真いくらで買う?」まあ片方なくなつてももう片方があるから損はないな

「いくらで売つてくれるんだよ」

「今度飯おごつてくれたらいいよ」

「交渉成立でいいぞ。早く消せ」よしこれで一食分食費が減つたなそして俺がデータを消すと

「・・・へ・・・へ・・・」

「ーーーー?」

「変態ーーーー」

「さっ、さささっ、サイッター!!」

(お、やっと起きたかケータイで録音しておこう)俺は跳び箱の横に行った

「このチカン!恩知らず!人でなし!」キンジがかなり責められてる

「ち、違う！こ、これは、俺が、やったんじゃ、な！」

キンジがちょうどな！といったときにセグウェイが14台見えた
「うッ、まだいたのね」少女・・・神崎が言った

するとセグウェイが銃撃してきたから俺は防弾跳び箱の後ろに行った。そして俺の愛銃改造したトカレフTT-33を一つホルスターから抜いてマガジンのチェックをした。チェックしてる途中に

「あんた達もほら！戦いなさい！仮にも武偵校の生徒でしょう」

「むッ、ムリだつて！どうすりゃいいんだよ！」

「俺は準備中だ」

「これじゃあ火力負けする！向こうは14台いるわ！」

ズガガガッ！ガキンッ！

神崎が弾切れを起こしたようだ

「やったか」あれ、キンジの声が変わってる。

「射程圏外に追い払っただけよ。ヤツら、並木の向こうに隠れたけど……きつとまたくるわ」

「強い子だ。それだけでも上出来だよ」やっぱりなったのかよ

「ご褒美に少しだけお姫様にしてあげよう」ほんとキンジはあとで後悔するくせによく言うよな

(よし、準備が整った)俺が行こうとすると跳び箱の中から神崎をお姫様だっこして鋭い眼になったキンジが出てきた

「キンジそのモードになったんだから目標は一人7台な」神崎をおろしたキンジにそう言いながら俺は能力も使ったため呪われた眼複写眼 を解放した。その瞬間俺の眼に朱色の五つ星浮かんだ

アルファ・ステイグマ

「ゲン、右の7台は任せた。俺は左のを叩く」

「わかった」そういつて跳び箱の後ろから出て行った

今日の天気は晴れ時々少女（後書き）

複写眼は『伝説の勇者の伝説』からいただき、能力も少し足しました。（悪いのを）

ここが変だということがたくさんあると思いますのであったら感想で教えてくださいm（）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1976z/>

緋弾のアリア～呪われた眼を持つ者～

2011年12月7日03時04分発行